

土砂災害の恐ろしさ

岩沼市立岩沼中学校

一年

齊藤

詩乃

さいとう

しの

今年も台風の時期を迎えました。テレビや

ネットニュースを見ると、警報が流れていた

り、避難指示が出ていたり、最近、災害に

関する情報がたくさん流れているように感じ

ます。

二〇二二年七月十五日、土砂災害警報が宮

城県内二十四カ所の市町村に発令されました。

私が住んでいる岩沼市内には大雨警報が発令

され、その日は一日大雨が降り続きました。

後で知ったのですが、この日、宮城県内では

八件以上もの土砂災害が発生していたそうで

す。しかし、大雨警報だったため、私には土

砂災害に対する危機感がありませんでした。

土砂災害は一度発生すると一瞬にして多くの

人命や住宅などの財産を奪ってしまいます。

不注意になっただけじゃありません。

土砂災害が起きた時に流れてくる土石流の

速さは、時速二十キロメートルを起え、自転

車なみのスピードだと分かりました。土砂災害が起きた時に流れてくる土石流は、スピードがとんでも速いので、自転車なみの速さとはいえ、車に乗っても無事に逃げられるかどうか分かりません。土石流を背に向けて逃げる時とすぐに追いつかれてしまいます。逃げる時には土石流に対して直角に逃げるこゝが有効なのだ。と初めて知りました。特に高齢者や小さい子供は逃げるのが大変だと思ふので、早めに避難しないと、土砂に飲み込まれてしまいかねません。

実際に土砂災害が起こると、山にあつた土砂が雨によつて水分を含み、重くなつて崩れます。このよゝうな現象を土砂崩れといふので、土砂が壊れてしまつたものを片付けることも、重労働で大変だと思ひます。もし、土砂崩れの原因が台風による大雨だつたら、雨がやんだ次の日は、強い日差しが照りつて、土が固まり、暑くなります。そのため片付けはさりに大変になります。そのよゝうに考えると、

災害にあつている時も勿論大変ですが、災害
 が終わつた後の復旧作業も大変なことなので
 す。
 土砂災害は、自分の住んでいた場所だけで
 なく思い出さずして笑顔まで失われてしまふ
 恐ろしい災害です。土砂と壊れてしまつたも
 のの片付けはとて大変で、復興に時間がか
 かつてしまふということなど、土砂災害の被
 害にあつた人にしか分からないことは多いか
 もしれません。だからこそ私のように経験し
 たことがない人が、災害に備えることは大切
 なのだと思ふのです。
 土砂災害が起こりやすい地形は傾斜度三
 度以上、高さ五メートル以上の急傾斜地なの
 だそうです。災害に備え、自分が住んでい
 る場所の自治体のホームページなどには、その
 自治体での避難の仕方や、持ち物などが書か
 れています。災害が起きた時にスムーズに避
 難できるように、土砂災害が起きそうな場
 所や天気、自治体のハザードマップなどを調
 べ

しておく、さらに家族でも話をしておくなど、
 いっただ事前の準備が必要だと思えます。
 土砂災害というのは、自然災害なので、最
 新技術が進んでいる今でも止めることはでき
 ません。また、この災害は、前兆はありま
 すが、いつ起こるか分からない災害なので、
 私は事前に家族で避難の準備をして、災害に
 備えたいと思います。まだ土砂災害という
 災害を経験していないからこそ、いざという
 時のために、いろいろな場面を意識しながら
 知識を身に付けていきたいと思えます。
 岩沼市には「暮らしの便利帳」というもの
 があり、いざという時のポイントがわかり
 やすく記載されています。ホームページには、
 津波や地震、洪水、そして土砂災害用のハザ
 ードマップが掲載されています。自宅は土砂
 災害のハザードマップの中で危険ではないと
 確認できましたが、市内には山があるので、
 山間に住む人などはぜひ確認しておきたいも
 のです。

土砂災害について調べると、自分の知識が圧倒的に不足していることに気づきました。まずは、命を守る行動がとれるように、暮らしの便利帳やハザードマップなどを活用し、自宅周辺や通学路の危険箇所の把握と避難場所の確認を行うことから始めていこうと考えられています。自然災害を、防ぐことは難しいですが、被害を極力少なくすることは、私たち人間ならできるはずで、みんなが土砂災害について正しい知識を身に付け、怖さや大変さを共有することが、今の私たちにできる対策の第二步になると思います。